

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-120	実施計画番号	159	事業開始年度	平成21年度
事務事業名	十和田バラ焼きゼミナール補助事業			事業終了年度	
担当課名	観光推進課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	市のブランド力向上及び交流人口の拡大並びに活性化に大きな効果をもたらしている「十和田バラ焼きゼミナール」の活動に対し、全国B-1グランプリへの出展やプロモーション活動等の一部を補助する。				
事務事業の目的	「十和田バラ焼き」をPRし、市の魅力を全国に発信する。				
実施状況	平成26年には全国B-1グランプリで「十和田バラ焼きゼミナール」がゴールドグランプリを獲得、平成27年には十和田市で全国B-1グランプリ大会を誘致するなど市のブランド力向上及び交流人口の拡大並び活性化に大きな効果をもたらした。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	5	5	5
	人件費(千円)	180	180	180
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		1,000	500	1,000

【指標】

活動指標	活動指標名①		十和田バラ焼きを通じての市のPR回数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回	50	80	50
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		交流人口の拡大			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			千人	2,930	2,930	3,000
			実績値	2,714	2,897	
			達成度(%)	93%	99%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	平成21年	点数	合計	検証の理由		
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地	0 / 4
	②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地	0 / 6
	④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地	0 / 6
	⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地	0 / 4
	⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					20 / 20	改善の余地		0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

「十和田バラ焼き」をPRし、市の魅力を全国に発信することで、市のブランド力向上及び交流人口の拡大に大きな効果をもたらしている。このようなプロモーション活動等に要する経費を補助する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

今後は、今まで築いたネットワークを活かし、「地方創生」における十和田市への移住・定住を見据えた事業を展開していくとのこと。